

「金融工学」が
果たした役割？

アメリカ発の金融危機が全世界に波及し、そして実体経済にも影響を及ぼし始めた。日本のタクシー業界も十一月、十二月と二桁代の減収を記録し、そして更なる悪化が予想されている。折角、原油の値段が下がり、一息つけると思っていた矢先だと思いが（もつとも原油の値下がりには金融危機の結果とも言え、痛し痒しの面もあるのかも知れない）。

ところで今回の金融危機のキツカケとなったサブプライム問題、さらにその証券化による全世界への拡大の中で、最先端の知であると言われる「金融工学」の話が取沙汰されている。結論として多くの優秀な人材（中にはノーベル賞をとった人もいる）が高額な報酬と引き換えに、高度な金融知識とコンピュータを駆使して、詐欺同然の金融商品に化粧を施して、全世界にばらまくお手伝いをしたと言う事である。堅苦しい言い方かも知れないが「知のあ

り方」が問われているのではないかと思う。そして、その問いは四十年前も前の昔、所謂「全共闘運動」で問われた、「知識人―知のあり方」を思い起こさせる。

「全共闘運動」って何？！

今までの私のコラムを読んだわが社の女性社員から、「団塊耕志録」と言いながら団塊世代の話が一向にできませぬね！」と突っ込みがあった。確かに……と思ひ、少し団塊世代の共通体験である、「全共闘運動」に触れてみたい。勿論、団塊世代でもその立場（というほど大袈裟な話ではないかも知れないが）によって全共闘運動の評価は異なるに違いない。暇な学生が、イデオロギーにかぶれて勝手に騒いでいたと見る人もいるだろうし、一種の文化運動と見る人もいるだろう。結構大きな社会的運動だったとは思いますが、その評価はさだまらず、また正反両面で教訓化されていない。結末が連合赤軍などのイメージなどと重なり、あまり思

清野吉光氏のコラム

団塊耕志録 第4回

清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



社会は螺旋的に
発展する!

い出したくない記憶として閉じ込められてしまっているのかも知れない。しかし、多くの若者が自分の人生や場合によってはその命をかけてやった活動が結果として敗北し、挫折し、悲惨な結果になったとしても、何故そう思い、何故敗北し、したがってそこから得た教訓は何かを問い、それぞれやり方で語るべきだとは思ふ。そういう筆者もそれが出来ている訳ではないので、このコラムで少しずつその作業をさせて貰えたらと思う。

さて、全共闘運動とは何か？様々な要素があると思うが、この「知のあり方」に対する問い、とりわけ大学の教授、学生がその知の社会的責任、あるいは知の社会性を問うた（問われた）と言っても良いかも知れない。そしてその責任に無自覚な大学教授の「知」を「専門バカ」として批判し、つるしあげた。が、そのつるしあげは短絡的で観念的で、新たな知のあり方を運動として提示できなかった。今回の金融資本の暴走とそ

の中で、高度な知としての「金融工学」が果たした役割を思うと、歴史は繰り返すし、そして同じテーマがあらためて問われているのだとも思う。

「いつか見た風景」
確かに歴史は繰り返す、古き問題が今に甦る。しかし、実は同じ事を繰り返すのではなく、より発展した、高次のレベルで繰り返す。「予見の哲学」である弁証法では「物事は螺旋的に発展する」という。例えばタクシーで言えば、現在の「再規制」は昔の規制の時代に戻るのではなく、螺旋的に発展した、即ち、「規制緩和」で企図したタクシー業界の改革を包括した規制として現われてくるのだと思う。新「需給調整」は良きサービスを選び、悪しきサービスを淘汰する仕組み



として実現され、利用者へのサービスと乗務員の生産性の向上として実現される(筈)。

今まで相矛盾するものとして対立していたものが「対立物の統一」として止揚されるのである。そして止揚の為の条件として、ユビキタスタクシーがある。その昔、毛沢東は文化大革命でこの弁証法の「対立物の統一」を「一方が他方を食い尽くすこと」と解釈し、

権力闘争遂行の為の便法に堕した。文化大革命に影響を受けた日本の新左翼も同じ勘違いをした。いま世界を覆う原理主義もこの弁証

法の思考回路を欠いている。矛盾は発展の原動力であり、対立物は相互依存し、そして相互浸透し、そして量的成長の継続の中であるとき

質的飛躍をとげ、その矛盾は止揚され新しい地平に向かう。規制緩和か再規制かではなく、需要創造という新しい段階のための試行錯誤、その量的蓄積こそ地味ではあるが、一番必要な事ではないのだろうか？

「自転車 らくらくサービス」

弊社の地元である清水市(現在は合併されて静岡市清水区になっているが)にさ

さくらタクシーでは、お客様により一層
便利にタクシーをお使い頂くために、
「自転車らくらくサービス」
を開始致しました。
(通常タクシー料金でOKです！)
自転車は無料です

急に雨が降ったら
通学・通院・急病時・買い物に急な時・1?7

お酒を飲んだら
自転車でお酒を飲んだら
自転車でちょこっと一杯のつもりが...1?7
自転車も飲酒運転になります!!

荷物が多くなったら
ちよつと買はずぎ、友達がつかなくなったら...1?7

「人と地球にやさしい環境をめぐらして」
子供たちの未来のために!!
田舎を駆け 時を駆け 文化の密 想いの手伝い

さくらタクシー
全車防犯カメラ付きではありませんので、必ずお乗車の時に
「自転車らくらくサービス」とご指定下さい。

TEL (0543) 45-8118

くらタクシーという弊社の顧客がある。今年の正月の挨拶周りでお伺いすると、元警視庁の機動隊出身である杉村光雄社長が応対してくださった。そして現在の地方の厳しい実情を話して下さったが、そうした中で少しでもお客様の利便を図り、需要を増やそうと「自転車らくらくサービス」を数年前から始めている事を教えてくれた。四国のある業者が開発したタクシー向けの自転車キャリア設備を導入し、無料でお客様の自転車をのせ、雨のとき、お酒を飲んだとき(自転車でも飲酒運転になる)、荷物が多いときに利用してもらえるようにして、お客様からも喜ばれたという。このサービスは全乗連でもとりあげられ、あたらしい需要の開拓の手段として注目されていたらしい。杉村社長はこのサービスをより広め、認知を得ようと、念のため、県警に確認をしたところ、道路交通法に抵触するとの見解で、公的な承認を得られないという事でもあり、警察関

係者にも相談をしたようだが、ナンバーが見にくいだとか、少し幅がはみでるだとか、道路交通法の機械的な解釈で折角の利用者向けの新しいサービスが実現できないでいる。法律は大概、その法律の目的があつて、個々の条文はその目的に照らして弾力的に解釈できる筈の物。しかし、現実には前例主義、縦割り、事なかれ主義の解釈によって折角のタクシー事業者の創意工夫の試みが実現できないでいる。この間のタクシー行政の改革の趣旨はこうした事業者の自主的なサービスの創発にあつた筈。この件については国土交通省ではなく警察行政ではあるが、交通政策審議会にも警察庁の方も参加されているので、是非こうした試みを前向きに育てるよう期待したい。そうしてこうした試行錯誤の量的蓄積が、タクシー業界の質的飛躍を準備するのだと信じていたい。杉村社長頑張ってください！応援します！
(二〇〇九・一・二〇記)

ALCmini II

Alcohol Recording System for Professional

「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-mini-IIで始めるカシタ3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

＜お申し込み・お問い合わせ＞

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区東神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

＜製造元＞

東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>